

星空を守る会総会とシンポジウム



2006年6月25日(日)国立科学博物館・新宿分館1F会議室で開催されました。今回の総会では、会員だけでなく、各方面から多数の御参加がありました。環境省からは、大気生活環境室長ら2名が参加されました。照明メーカーからは、岩崎電気の遠藤さん他1名、松下電工からは、松井さん他1名が参加されました。各地で様々な活動をされている方々としては、山梨県立科学館の高橋さん、跡部さんの参加もありました。



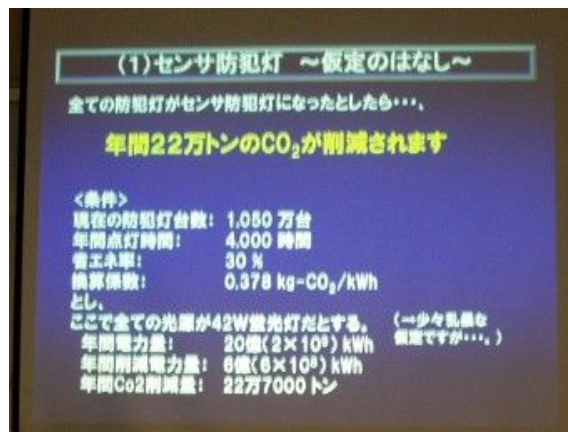
デモ機を用いて説明

午前中は、各地の活動を中心として自己紹介などが行なわれました。午後からは、光害シンポジウムとしてそれぞれのお立場から発表がありました。照明メーカー各社からは、新製品の紹介や、各地の光害に対する取り組みの発表がありました。また環境省大気生活室長からの環境省の取り組みについての発表もありました。あわせてポスターの配布もありました。

今回のシンポジウムの争点は、上方光束ゼロの安価な防犯灯の開発についてです。内田さんが、熊本県城南町で設置されている防犯灯の見本を持って来て説明されましたが、現在普及している20Wの蛍光灯に代わる安価な防犯灯が無いと言う事が話し合われました。メーカー側としては、コストの点で難しいそうです。今回はその困難を乗り越えて開発してもらうことを要望して終わりました。



岩崎電気の遠藤さんの発表



全ての防犯灯がセンサーになると

熊本県民天文台デモ機提供プロジェクト

熊本県民天文台では、岩崎電気さんのご協力により、「上方光束ゼロ」防犯灯のモデル機(城南型)を無料で貸し出す、デモ機提供プロジェクトを行なっています。熊本県民天文台経由で、全国各地の光害対策に取り組む方々に提供しています。

天文同好会での会合を始め、市民や市民団体や、子ども会などへの天体観望会など、あらゆる機会を利用して点灯実験などを行い、

光害対策への理解を深め、地域の光環境の改善への取り組みや協力を求めるなど、啓発活動を行ってくださることが条件です。連絡先は以下です。

<http://astro.magma.ad.jp/>

住所： 熊本県下益城郡城南町塚原 2 0 1 6
塚原古墳公園内

電話： 0964-28-6060

ライトダウン甲府バレー・光害シンポジウム

2006年10月14日～15日は、甲府市中央商店街のアルジャンでライトダウン甲府バレーのイベントが開催されました。内容は、写真展・プラネタリウム・望遠鏡づくり教室・光害シンポジウムです。写真は15日に開催されたシンポジウムです。講師は国際ダークスカイ協会の内田さんです。内容の趣旨は光害の少ない照明は、夜空にもれる無駄な光が無く、効率が良くて省エネルギーになるという事です。



ご講演の中で内田さんは、屋外照明の省エネだけでなく、屋内照明の省エネについても紹介されました。日本のオフィスの照度基準は諸外国に比べて明るすぎるそうです。また照明の使い方を工夫する事により省エネになるそうです。全体の照明と局所の照明を使い分ける省エネ型のオフィスの紹介がありました。

豊橋市で城南町型の防犯灯 1 基を導入

豊橋市の鈴木さんからの報告です。「城南町型」防犯灯 1 基が、愛知県豊橋市でも、地域住民の合意を得て初めて導入され、2007年1月31日点灯式があったそうです。新しい防犯灯のそばに、既存の直管 20W型の防

犯灯が設置されていて、一目で違いが分かるそうです。

点灯したら、「城南町型」はとても好評だったそうです。昨年8月に導入が決まっていたのですが、この地域での導入は初めてとあって、取り付け金具の製作などに時間がかかり、また費用も城南町での導入より余分にかかってしまったそうです。でも、今後の導入促進を期待する声が高まっているそうです。鈴木さんのねばり強い取り組みに感謝します。(熊本県民天文台のホームページより転載)



環境省の政策提言に応募しました

国民、NGO/NPO、企業、行政等のパートナーシップによる環境保全の取組を推進するため、NGO/NPOや企業などから環境に関する政策の提案をいただき、政策に反映する「NGO/NPO・企業環境政策提言」が実施されました。2006年10月10日から12月8日までの期間、NGO/NPO・企業環境政策提言推進委員会が、環境に関する政策提言を募集しました。「星空を守る会」として政策提言に応募しました。

2006年6月25日の星空を守る会総会終了後に、環境省大気生活環境室の島田さんから「地球温暖化対策課長が同期なのでよろしくお願いします。」と依頼されました。理事をしているNPO法人太陽光発電所ネットワークのことだろうと思っていたら、「星空を守る会」として地球温暖化対策の政策提言をすると言う事に後で気づきました。そして今回の政策提言に至りました。

政策提言の趣旨は、「夜間照明の電力を節約した場合には、火力発電の電力を減らして温暖化防止に貢献した。」とする内容です。

夜間は原子力発電の割合が多くて、省エネしても温暖化防止に貢献しないという意見もありますが、原子力発電の割合を増やしても結果的に電力消費が増えてしまい、火力発電も増えてしまうという現実があります。ですからこの様な政策提言になりました。

応募した政策提言は同委員会で選考し、優れた提言については「NGO/NPO・企業環境政策提言フォーラム」（2月に開催予定）において発表されます。残念ながら星空を守る会の提言は優秀提言には選ばれませんでした。環境省のホームページに他の提言と共に掲載されています。

<http://www.env.go.jp/press/>の2月5日の記者発表に掲載されています。

（平成18年度・第6回 NGO/NPO・企業の環境政策提言の選考結果及び NGO/NPO・企業環境政策提言フォーラムの開催について）この中のPDFファイルその4に掲載されています。2月28日に、東京新橋の航空会館7F大ホールにて、フォーラムが開催されるそうです。詳しくは環境省記者発表をご覧ください。

丸の内のイルミネーション・グリーン化

2006年12月に東京丸の内で行なわれた「光都東京」ライトアップイベント

<http://www.nifty.com/koto-okyo/index.htm>と、「丸の内イルミネーション」の消費電力約8万 kWh を太陽光と風力の自然エネルギーで賄うことを目指し市民の募金によって「グリーン化」する日本初(!)のキャンペーンが行なわれました。国際環境 NGO FoEJapan の主催で行なわれました。多くの人々の「グリーン電力証書」の購入を通じた参加により、期間中の電力を自然エネルギーで賄おうという取り組みです。グリーン電力証書は購入時に、太陽光（東京産）と風力（秋田産）を選べます。ライトアップやイルミネーションの電力は電力会社から購入して点等されます。そして今回、このグリーン電力証書で、火力発電（原子力発電の分は無視）からの二酸化炭素の排出が削減されます。たとえ8万 kWh のグリーン電力証書が完売されても次年度のライトアップ資金の足しにはなりません。ライトアップの主催者は、通常通り電気料金を支払わなければならないからです。グリーン

電力証書による寄付金は、それぞれの販売元を通じて、自然エネルギー発電所の建設に利用されます。太陽光発電のグリーン電力証書の発売元は、NPO法人太陽光発電所ネットワークですが、その資金の一部は発電所建設に利用されます。



グリーン電力証書で設置された太陽光発電

寄付金でグリーン電力証書を購入

以前にもお知らせしましたが、故・三沢彰先生から御寄付を頂きましたが、その使い道が決まらないまま数年が経過していました。

丸の内のイルミネーションに反対する意思表示として、その寄付金で太陽光発電のグリーン電力証書を購入しました。太陽光発電の電気なら夜間発電しませんのでイルミネーションやライトアップを点等することは出来ません。お金は上記の太陽光発電所の建設に利用されます。

以下郵便振替に記入したメッセージです。

丸の内のイルミネーションに反対します。

「星空を守る会」は光害を防止する立場からライトアップなどに反対している団体です。今回、太陽光のグリーン電力証書を購入して夜の電力が供給されないようにしたいと思います。植物への光害の影響を研究されていた、千葉大学の故三沢彰さんの御寄付を送金します。

（政策提言は裏面に掲載）

星空を守る会・連絡先

〒407-0301 山梨県北杜市高根町
清里3545-3902 大友 哲
電話・FAX 0551-48-3822
e-mail

satoruot@eps4.comlink.ne.jp